

## 5. スターチス

### ・殺菌剤

FRACコード	薬剤名	使用方法	使用時期	使用回数	備考
10+1	ゲッター水和剤	散布	-	5回以内	花き類・観葉植物(ひまわり、ゼラニウムを除く)
9	フルピカフロアブル	散布	発病初期	5回以内	

### ・殺菌剤 (参考農薬)

FRACコード	薬剤名	使用方法	使用時期	使用回数	備考
M1	サンヨール	散布	開花前まで	8回以内	
19	ポリオキシンAL水溶剤	散布	発病初期	8回以内	花き類・観葉植物

### ・殺虫剤 (参考農薬)

IRACコード	薬剤名	使用方法	使用時期	使用回数	備考
3	アディオンフロアブル	散布	-	6回以内	
15	カスケード乳剤	散布	発生初期	3回以内	

- 注1) 使用回数はその薬剤の使用回数を記載しており、この他に薬剤に含まれる成分毎に、総使用回数が決められているので、農薬ラベル等を確認してそれを超えないように注意する。
- 注2) 薬剤抵抗性の出現を防ぐため、「FRACコード」や「IRACコード」を参考にしながら他系統剤とのローテーション使用を心掛ける(「薬剤抵抗性管理」参照)。
- 注3) 農薬登録上の作物名が標記の作物名と異なる場合、備考欄に記載した。
- 注4) 蚕毒・魚毒については、「24. 花き類の総括注意」も参照する。

病害虫名 (F : 菌類病、B : 細菌病、V : ウィルス病、O : その他の病原体)

病害虫名	防除時期	防除方法	注意事項
灰色かび病 (F)	生育期間	<p>1. 施設内が過湿にならないよう密植を避け、換気を図る。</p> <p>2. 株元の枯死葉は伝染源になるので除去する。</p> <p>3. 発病を見たら、直ちに罹病部を除去し、薬剤を散布する。</p> <p>4. ゲッター水和剤の1,000倍液、フルピカフロアブル2,000倍液のいずれかを散布する。</p> <p>5. 除湿機を利用すると発病軽減できるが、完全な防除は困難である。薬剤を併用すると散布回数の削減と防除が可能である。 [参考農薬]</p> <p>1. サンヨール500倍、又はポリオキシンAL水溶剤2,500倍液を散布する。</p>	<p>1. 薬剤耐性菌の出現を避けるため、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布する。</p> <p>2. 「22. 除湿機を利用する場合の注意事項」を参照する。</p>
ウィルス性病害 (V)	生育期間	<p>1. ウィルス感染苗による伝播は広範囲に及ぶため、ウィルスフリー苗を用いる。</p> <p>2. アブラムシ類防除のため、「21. 花き類・観葉植物」の項を参考に、定期的に殺虫剤を散布する。シルバーストライプフィルムでマルチすることも有効である。</p> <p>3. ハウス周辺の雑草は伝染源になるので定期的に除草する。</p> <p>4. 罹病株から順次二次伝染が起こるので、発病株は早期に抜き取り、ほ場外に埋却する。</p>	<p>1. 育苗時の感染に厳重注意する。</p> <p>2. 病原ウィルスにはCMV、TuMV、CYVV、BBWVなど知られているが全てアブラムシ類により媒介される。</p> <p>3. 上記の他に、GALVによるウィルス病害も県内で発生が確認されている。</p>

病害虫名	防除時期	防除方法	注意事項
ウイルス性病害(V)	生育期間		4. G A L Vは土壤伝染するので発病ほ場では連作しない。 5. 本病が疑われる株に用いたハサミは、そのまま健全株に使用せず、洗浄して使用する。
黄化えそ病(T SWV) えそ斑紋病(I N S V) (V)	植付前	1. 無病苗を使用する。	1. 育苗時の感染に厳重注意する。 2. 本ウイルスは、アザミウマ類により伝搬される。 3. T SWV, I N S Vには簡易診断キットが市販されているので、それらを用いて診断できる。
	生育期間	1. ウィルス感染苗による伝播は広範囲に及ぶため、ウイルスフリー苗を用いる。 2. アザミウマ類の飛来・増殖を徹底的に阻止する。ハウスの開口部を防虫ネット(0.4mm目合い)で被覆すると、侵入を軽減できる。 3. 殺虫剤を定期的に散布する。 4. ハウス周辺の雑草は伝染源になるので定期的に除草する。 5. 罹病株から順次二次伝染が起こるので、発病株は早期に抜き取り、ほ場外に埋却する。	
アブラムシ類(ウイルス媒介)	生育期間	1. シルバーストライプフィルムでマルチする。	1. ウィルス発病株は、早期に抜き取る。
ヨトウムシ	生育期間	[参考農薬] 1. アディオンプロアブル 1,500 倍液を散布する。	1. アディオンは蚕毒及び魚毒に特に注意する(特別指導事項参照)。
シロイチモジヨトウ	生育期間	[参考農薬] 1. カスケード乳剤 4,000 倍液を散布する。	1. カスケードは蚕毒に特に注意する(特別指導事項参照)。 2. カスケードは、シヌアータ系の品種では薬害のおそれがあるので使用しない。